

# [シラス]

## 1. 経年経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では、平成 11 年の 5,450 トンをピークに減少傾向を示し、平成 14, 15 年と 1,000 トンを下回り低調に推移しました。その後、平成 16 年は 3,507 トンと比較的好調に推移しましたが、平成 17 年以降減少傾向を示し、平成 27 年は 1,563 トンとなりました。

志布志湾海域では、平成 19 年まで増加傾向を示しましたが、その後、1,000 トン前後で増減を繰り返しながら推移し、平成 27 年は 1,406 トンとなりました。

## 2. 平成 28 年 6～8 月期の漁況の経過

西薩海域では、カタクチシラス主体で 267 トンの水揚げで、前年の 119 %、平年の 226 %でした。

志布志湾海域では、カタクチシラス主体で 124 トンの水揚げで、前年の 63 %、平年の 76 %でした。

## 3. 平成 28 年 10～12 月期の見とおし

漁獲の主体は、カタクチシラスでしょう。来遊量は、西薩海域は前年・平年並、志布志湾海域は前年並で平年を上回るでしょう。

(根拠)

西薩海域では、夏季降水量と秋漁との関係及び前期春漁と秋漁との関係から、前年・平年並と考えられます。

志布志湾海域では、直近の漁模様の聞き取り情報から、好調だった前年並で平年を上回ると考えられます。

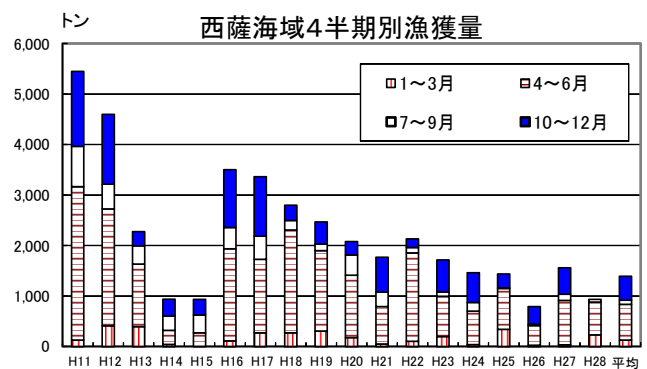
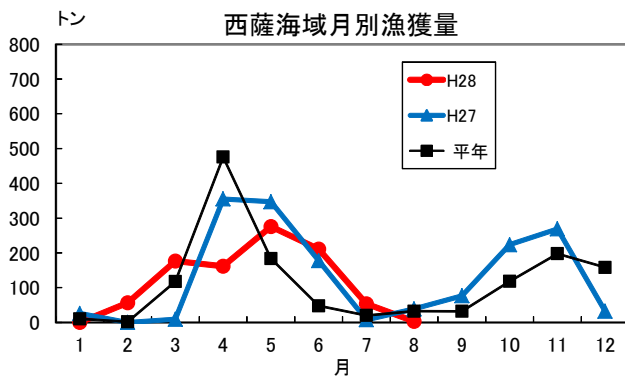


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(4漁協計)

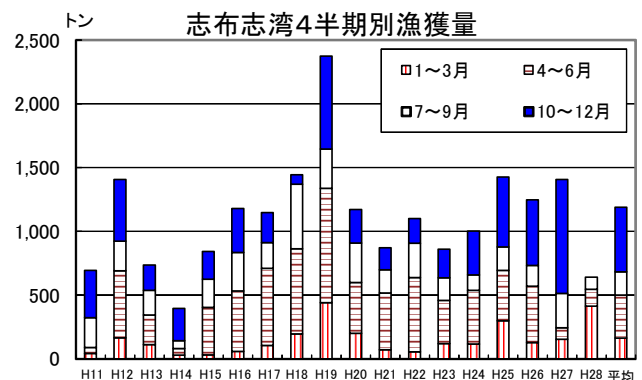
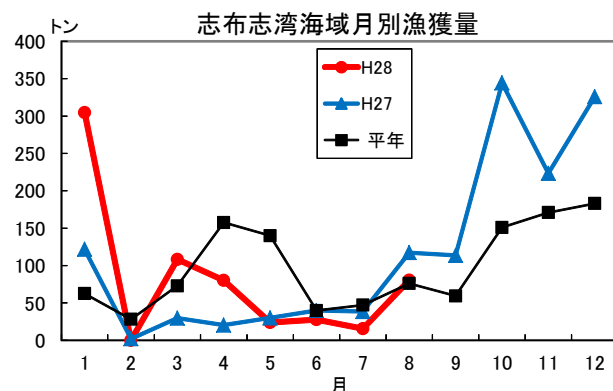


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

※平年値は過去 5 年(平成 23～27 年)の平均値(AV)、平成 28 年 8 月 31 日までの水揚げ量を使用